

2、漢字習得状況調査の実施

昭和51年9月2日と3日の2日間にわたって全校児童341名全員について実施した。新訂「新しい国語」(東京書籍)にでてくる該当学年以下の新出学年すべてについて調査。1年生は76字、2年生は221字、3年生は416字、4年生は611字、5年生は809字とだんだん増え、6年生は1,004字になり、調査用紙も31枚に達した。

調査の目的

ア、習った字をどの程度覚えているのか

個々の習得率、学級・学年の習得率とその傾向

イ、一字一字についての習得率

子どもにとって覚えにくい漢字はないか

ウ、誤字傾向の分析 誤字傾向を知り、今後の指導に役立てる

調査方法(略)

調査の集計と考察(「集計」は次頁の表で)

●学年別正答率〈3年字の一部〉

(No)	漢字	正答率(%)				(No)	漢字	正答率(%)			
		3年	4年	5年	6年			3年	4年	5年	6年
1	炭	83.6	50.0	69.8	70.4	41	急	50.9	61.1	45.3	63.4
2	屋	74.5	72.2	79.2	93.0	42	横	56.3	50.0	60.4	83.1
3	仕	89.0	79.6	81.1	95.8	43	落	52.7	51.9	47.2	88.7
4	事	76.4	74.1	84.9	95.8	44	向	72.7	53.7	54.7	62.0
5	開	80.0	63.1	71.7	83.1	45	次	52.7	53.7	58.5	81.7
6	取	61.8	72.2	28.3	56.3	46	短	45.5	37.0	37.7	78.9
7	登	70.9	75.5	88.7	84.5	47	細	69.0	68.5	71.7	90.1
8	息	67.2	64.8	71.7	69.0	48	線	49.1	59.3	66.0	83.1
9	皮	52.7	61.1	79.2	74.6	49	使	38.2	30.0	45.3	73.9
10	意	74.5	59.3	50.9	78.9	50	終	72.7	72.2	83.0	94.4

●一人当りの習得漢字数

	1年字	2年字	3年字	4年字	5年字	6年字	当該学年までの			前学年までの 習得率	
	76字	145字	195字	195字	198字	195字	合計習得字数	配当 字数	習得率		
1年	28						28 字	27 字	76 字	36.8 %	%
2年	69	41					110	91	221	49.8	90.8
3年	75	119	53				247	173	416	59.4	87.8
4年	74	120	103	39			336	216	611	55.0	71.4
5年	74	120	111	68	50		423	325	809	52.3	61.0
6年	75	135	147	108	67	48	580	470	1004	57.8	65.8

考察(抄)

出題は原則として教科書初出の語形によったため、その漢字配当学年では問題なかったが、高学年児童にとっては読みかえの関係で、どちらともとれる同音異義の言葉(例＝指示する・支持する、想像する・創造するなど)が生じた。

その漢字は正答にも無答にもならないように処理した。

習得率がよくなるのは初出学年プラス2～3年経過後である。

1～2年時の漢字の配当が少なく負担が軽いのではないか。

そのしわよせが3～4年の時にひびいている。

漢字の定着は初出時より2～3年の練習期間経過後に定着するのではないかと推定される。

(資料 1)

以上の調査、集計、考察、そして20ページの小冊にまとめるのに、ほぼ半年を要した。翌年石井勲先生にお目にかけると「大変ご苦労様でした。このことは私が20年前にやったことと同じです」とおっしゃったので、不勉強が恥ずかしかった。しかし後になって考えると、この調査を自分達の手でやったことが私達なりの漢字指導観をもち、石井方式の実践に踏み切る原動力になったと思う。

習得率30%以下の漢字が237字あったが、これを「覚えにくい漢字一覧表」(実は目に触れる回数の少なかった字、もしくは教師が指導を怠った字)にして児童・家庭に配布した。そして学校でも指導した後、2月3日にもう一度この字についての調査をした。

漢字分析も計画していたが実際には習得率の低い漢字は誤答よりも無答が多く(237字中、223字、94%)分析を中止した。